

世界的な秋田犬ブームで大館市が「聖地」を整備

拓殖大学海外事情研究所教授 名越 健郎



Kenro Nagoshi

地方自治体が建設する博物館や観光施設の中には、採算が合わず失敗したプロジェクトも少なくないが、秋田犬の地元、秋田県大館市が5月にオープンした観光交流施設「秋田犬の里」は、ユニークな発想がうけて成功している。世界的な秋田犬ブームに乗ってペットファンらが続々訪れ、訪問客は2カ月で10万人を超えた。他の自治体が観光誘致戦略を進める上で参考になる。

プーチン、ザギトワの愛犬

秋田犬が世界で人気を呼んだ契機は、2009年のハリウッド映画「HACHI―約束の犬」だった。リチャード・ギア主演の映画は、日本映画「ハチ公物語」のリメイクながら、日本版よりも抑制が効き、より感動的との評価が多い。興行的には爆発的ヒットまではいかなかったが、多くの国でネット上の視聴が可能になったことから、世界の愛犬家の心をつかんだ。

この映画は特に欧州で話題を呼び、主人に忠誠を尽くす秋田犬への関心が一気に高まった。日本人はペットにかわいさを求めるが、欧米の愛犬家は犬に哲学を求める。寒さに強く、忠誠心の旺盛な秋田犬は欧州のペットファンの琴線に触れた。

帝国大学農学部教授によって飼われた。上野教授は1925年に亡くなるが、ハチは帰らぬ主人を約10年間渋谷駅で待ち続けた。この美談が報じられると、政府は修身教科書にハチ公を登場させ、忠誠心の発揚に利用した。

今回、JR大館駅前にオープンした「秋田犬の里」は、ハチ公が上野教授を待ち続けた大正時代の二代目渋谷駅がモデル。半円形の大きな窓と高さ十八メートルの時計台を備え、建物の前にハチ公像が立つ。

内部は、秋田犬を間近で見られる展示室、秋田犬の歴史や特徴を説明するミュージアム、観光案内所、土産品の販売コーナーなどで構成される。血統書付の秋田犬が1〜2頭常時駐在し、訪問客を迎える。隣接する芝生広場では愛犬の散歩も可能だ。建設費は国や県の交付金を利用し、約9億円という。

5月9日に完成記念式典が開かれ、プロジェクトを主導した福原淳嗣市長は「令和の時代にふさわしい施設をつくることのできた。海外のインターネット検索で『AKITA』は圧倒的な検索数を持つ。国内外の旅行者をターゲットとし、さまざまな交流の拠点にしたい」とあいさつした。

従来、秋田県には秋田犬と触れ合える公的施設が一つもなく、外国人は「秋田に来て秋田犬に会えなかった」とこぼしたものだ。しかし、秋田犬を観光誘致の起爆剤に据える県は、秋田犬保存会の協力を得て県内10カ所に触れ合い施設を設置した。秋田は47都道府県で人口減少が最も進むが、いまや秋田犬が県の疲弊を打破する救世主となりつつある。

2012年には、佐竹敬久・秋田県知事が愛犬家のプーチン・ロシア大統領に、東日本大震災での支援の感謝として雌の秋田犬を贈り、大統領は日本語で「ゆめ」と名付けてかわいがった。2018年には、平昌冬季五輪女子フィギュアスケート金メダリストのアリーナ・ザギトワさんが、大館市に本部のある秋田犬保存会（遠藤敬会長＝衆院議員）から雌を贈呈され、ザギトワさんは「マサル」と名付けてインスタグラムで発信し、ロシア内外で秋田犬人気を高めた。

中国の富裕層の間でも秋田犬は人気で、血統書付の子犬が一頭数百万円で売買されているとの情報もある。欧州や中南米、湾岸諸国でも秋田犬人気が広がり、日本のプリーダーの元には購入要請や問い合わせが殺到している。

小型洋犬ブームの日本では、大型犬の秋田犬は敬遠され、減少する一方だが、外国での人気がブーメラン効果を呼び、日本でも関心が高まってきた。

戦前の渋谷駅を再現

大館市は、日本で最も有名な犬である忠犬ハチ公生誕の地。ハチ公は大館駅から鉄道で渋谷駅に運ばれ、上野英三郎・東京

愛犬家の「エルサレム」に

今のところ「秋田犬の里」は大成功で、4月のプレオープン以来入場者は10万人に上った。土日は最大5000人以上が訪れており、関東はもとより関西方面のナンバーの車も多い。関東方面から来た若い女性の姿も目に付く。

大館市には、90年の歴史を持つ秋田犬保存会の本部があり、ここにも秋田犬博物館が併設されている。保存会は毎年5月、秋田犬らしさを競う本部展を大館市で開催し、近年は外国人の参加が目立つ。

保存会は米国、中国、ロシア、イタリア、台湾などに支部を持ち、近年、フランスやポーランド、ブルガリアなどにも支部が新設された。保存会の犬籍登録数は2017年末時点で、国内2700頭、海外3960頭で、海外が国内を上回っている。ピーク時の1972年は国内登録犬数が4万6000頭を数えたが、その後激減した。日本の住宅事情からみて、今後国内の秋田犬が増加するとは思えない。

しかしその分、わが国唯一の大型犬の天然記念物として希少価値が高まっており、秋田犬を見たいという観光客が増えた。頭数が減ったことで、秋田犬は次第に伝説の犬となり、大館市はそれをうまく利用した。保存会本部と「秋田犬の里」を抱える大館市は次第に、秋田犬ファンの「エルサレム」となり、聖地巡礼が人気を呼ぶ。博物館や観光施設には、こうした物語性が不可欠であり、大館市役所のアイデアが功を奏した。

(7月5日)

MOVEMENT